

2023 年度 国内フィールド実習（北東北）

2023 年度は青森県・秋田県で国内フィールド実習を実施しました。期間は 8 月 22 日（火）～25 日（金）までで、実習のテーマは、「北東北の歴史文化遺産をめぐる」です。世界文化遺産の北海道・北東北の縄文遺跡群に含まれる遺跡や、無形文化遺産である「なまはげ」の関連施設を訪れ、その魅力を体感すると同時に問題点も探り、今後の歴史文化遺産のあり方について現場体験を通じて考えることを目的としました。参加者は 1 年生 6 名と大学院生 1 名の計 7 名でした。

<第 1 日 8 月 22 日>

朝 9 時前に仙台駅に集合し、新幹線で青森市へ向かい、三内丸山遺跡（世界文化遺産）を見学しました。復元された約 5000 年前の縄文時代の巨大な竪穴建物や掘立柱建物のほか、土坑墓、土器・石器などの多数の出土品をじっくり観察しました。遺跡には縄文時遊館という展示・観光施設が付設されていて、出土品の収蔵庫が見学できたり、石器作りの体験やグッズの購入もできるようになっていて、さまざまな方法で遺跡めぐりを楽しめるようになっていました。見学者の中には外国人の姿も見られました。

<第 2 日 8 月 23 日>

秋田県北秋田市の伊勢堂岱遺跡（世界文化遺産）を見学しました。新青森駅から JR 奥羽本線で鷹ノ巣へ向かい、秋田内陸縦貫鉄道に乗り換えて縄文小ヶ田駅で下車し、徒歩約 10 分で到着です。伊勢堂岱遺跡は縄文時代後期の約 4000 年前の遺跡で、国内で唯一の 4 つの環状列石（ストーンサークル）が発見されたことで知られています。それぞれを巡回見学した後、伊勢堂岱縄文館に立ち寄り、環状列石を作った理由やそれが未完成なままである理由など、遺跡をめぐるといって映像解説や展示で学びました。

見学後は秋田内陸縦貫鉄道と JR を乗り継いで秋田市に移動し、夕方は千秋公園を散策しました。

<第 3 日 8 月 24 日>

秋田市から JR 線で男鹿市へ向かい、無形文化遺産のなまはげの関連施設を見学しました。「なまはげ館」では、なまはげの由来やしきたりについて説明を受けました。皆同じように見えて、地域ごとにお面が異なることなど、展示を見て学ぶことも多くありました。なまはげ館に隣接する「伝承館」では、男鹿のなまはげの実演を見学しました。臨場感のある体験ができ、テレビの映像ではわからないなまはげと訪問先の人々との具体的なやりとりを学ぶことができました。

見学後は秋田市内に戻り、古代の秋田城跡を見学しました。

<第4日 8月25日>

実習最終日は、新幹線で秋田市から仙北市角館町に向かいました。角館は「みちのくの小京都」と呼ばれ、古い町並みが残っています。この日は、明治時代の面影を残す町屋敷と江戸時代に建てられた武家屋敷（重要伝統的建造物群保存地区）をゆっくりと見学しました。ただ歩くだけでは単なる観光ですので、なぜ角館には現在まで古い町並みが残っているのか、町屋敷と武家屋敷の違いと特徴は何か、といった問題の答えを探りながら町内をめぐりました。

探訪を終え、新幹線で仙台に戻りました。行く先々で体温を超える暑さとなりましたが、全日程を無事に終えることができました。

今回の実習に先立ち、5月から参加メンバーで勉強会を行い、世界遺産や東北の歴史文化遺産について事前に情報を入手しました。また、単に遺産そのものについて学ぶだけでなく、そこにどのような旅行者が来ているか、周辺にどのような施設があるか、PRがどのように行われているか、周辺住民との関係はどのようなものか、といった遺産周辺の状況にも目配りすることを事前に打ち合わせして、実習に臨みました。

勉強会は実習後も続けました。現場体験を通して得られた学びの成果を資料にまとめ、10月14日（土）のシンポジウム「どうする東北の世界遺産～フィールドからの報告～」で報告しました。勉強会という疑似体験と実習という実体験を発表資料という形に残すことで、「北東北の歴史文化遺産をめぐる」旅が教養としてしっかりと身についたことでしょう。

今回のフィールド実習が、これからの学科での学びに活かされることを期待しています。

三内丸山遺跡



伊勢堂岱遺跡



なまはげ館



古代秋田城跡



角館

